

令和2年産(元年播種) 麦類生育概況

長野県農業試験場 作物部

調査月日	項目	大麦:ファイバースノウ			小麦:シラネコムギ		
		平年	令和元年(播)~2年(産)	平年比	平年	令和元年(播)~2年(産)	平年比
出芽期 (11月25日)	出芽数 本/m ²	172	151	88%	160	179	112%
越冬前 (12月15日)	草丈 cm	12.0	8.1	68%	14.6	13.2	90%
	茎数 本/m ²	387	161	42%	444	193	43%
	葉数	4.1	2.0	-2.1	4.2	2.6	-1.6
越冬後 (3月1日)	草丈 cm	11.6	11.2	97%	14.4	16.5	115%
	茎数 本/m ²	647	797	123%	1075	1107	103%
	葉数	5.9	6.1	+0.2	6.3	6.8	+0.5
(3月15日)	草丈 cm	13.2	14.9	113%	16.8	21.9	130%
	茎数 本/m ²	947	890	94%	1144	933	82%
	葉数	6.7	7.3	+0.6	7.1	7.5	+0.4
幼穂形成期 茎立期(参考)		3月13日	2月12日	-30	3月20日	2月20日	-29
		3月30日	3月30日	±0	4月1日	3月24日	-8
出穂期		4月30日	5月1日	+1	5月7日	5月7日	±0
成熟期		6月5日	6月9日	+4	6月17日	6月18日	+1
成熟期	稈長 cm	90	99	110%	87	81	93%
	穂長 cm	5.0	4.3	86%	8.4	8.0	95%
	穂数 本/m ²	467	391	84%	510	450	88%
収量	子実重 kg/a	68.6	69.6	101%	65.6	55.1	84%
	容積重 g/l	688	727	106%	797	803	101%
	千粒重 g	38.2	37.9	99%	41.6	38.2	92%

※平年値は過去7年間に於ける収量最大年と最小年を除いた5力年の平均値。

※茎立期はデータ数不足により平年値は参考値として平成30年度と令和元年度の平均値を示す。

<耕種概要>

栽培様式:30cm条間ドリル播

播種期: 大麦 令和元年11月5日、小麦11月5日 播種量: 7kg/10a

施肥量(N): 基肥 6kg/10a 炭苦土石灰50kg/10a、追肥 茎立期追肥:3月12日 3kg/10a

<生育概況>

越冬前 10月12日の台風19号の影響で播種作業が約2週間遅れた。その後、11月中旬は平年より約2℃高く推移し、出芽数は大小麦ともほぼ平年並に確保されている。その後も平年より温暖、少雨傾向で推移したが、12月15日時点の越冬前調査では草丈は短く、葉数の進展は停滞し、分けつが発生し始めたところであった。

越冬後 1月以降も気温は平年より2℃程度高く経過し、3月1日時点で大麦では草丈、葉数は平年並み、茎数は平年よりやや多かった。小麦では草丈、茎数、葉数ともに平年並~やや進んでいる。

3月15日時点での生育は草丈、葉数は平年よりやや進み、茎数は大麦で3月1日調査からやや増加、小麦でやや減少している。例年では分けつ盛期の時期であるが、本年は高温から生育が進み、小麦は茎立ちが始まってきているため、無効茎の退化により例年より早く減少に転じていると考えられる。

幼穂形成 幼穂形成期(幼穂分化の第七期~第八期)は大麦で平年より30日、小麦で29日早かった。

~茎立期 茎立期(主稈最下位節間が20mmとなった時期)は大麦は平年並み、小麦は平年より8日早かった。

出穂期 出穂期は大麦で平年より1日遅く、小麦で平年と同日であった。越冬後生育は大きく前進していたが、4月の平均気温が平年より1~4℃程度低温傾向であったため、生育が停滞したと考えられる。

成熟期 成熟期は平年より大麦は4日、小麦は2日遅かった。また、大麦では稈長が長い、穂長がやや短く、穂数がやや少なかった。小麦では稈長、穂長は概ね平年並みであったが、穂数がやや少なかった。

収量 大麦では子実重、容積重、千粒重ともに平年並みであった。小麦では子実重、千粒重が平年よりやや小さかった。